所属・氏名（総合リハビリテーション学部　リハビリテーション学科　氏名：國貞　将志）

著書、学術論文等の名称		単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1	（学術論文） 精神障害を有する者の作業選択に伴う意味の度合いと生活満足度《筆頭論文》	共著	2008 年 3 月	吉備国際大学保健科学部研究紀要 13 号	精神障害を有する者を対象に、1 日の作業を選択するに伴う意味を「願望」、「必要性」に分類し、生活満足度との相関分析を行った。その結果、作業療法においてクライエントが「願望」「必要性」の意味を強く伴う作業を選択し従事することを支援するだけでは、必ずしも生活満足感にはつながらないことが示唆された。(5 頁) （國貞将志、港美雪、山口隆司、小池伸一） 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2	（報告・発表） 「希望者全員に有意義な働く機会があること」を目指した実践　作業的公平を主張すること、広めること	共著	2007年6月	第 41 回日本作業療法学会（鹿児島県）	本実践は「作業は健康に多大な影響を与える」という作業科学を基盤に共同作業所において働くことを希望する精神障害を有する利用者を対象に、希望者全員が有意義な働く機会があることを目指したものである。内容は地域の事業所に対して働くことの機会の提供を依頼するという社会的環境への介入と、利用者が達成できる仕事を行い、満足につなげることができるような援助という個人への介入を行った。結果として利用者の意欲、自信向上および精神障害に対する地域住民のイメージの変化につながった。 （岡千晴、國貞将志、港美雪） 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3	（報告・発表） 就職活動における専門性について－就職活動における実態調査－	共著	2009 年 8 月	第 23 回中国ブロック理学療法士学会（山口県）	学生の就職決定に最も影響を与えるものは、臨床実習での経験であった。また最も影響を与えなかったものは学内カリキュラムの内容であった。そのため座学を中心としたものではなく、演習や実習を増やすことで、学生が将来セラピストとして働いているイメージができるようなカリキュラムにする必要があることが示唆された。 （弓掛秀樹、金島理恵、羽柴香江、國貞将志、村上慎一郎） 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4	（報告・発表） 臨床実習における価値と興味に関する一考察	共著	2010 年 6 月	第 44 回日本作業療法学会（宮城県）	臨床実習での課題ついて、デイリーノートの記述および症例レポート作成については、興味は感じられない学生が多かった。これらは、臨床能力の未熟な学生が、実習での体験を文書化し、指導者から指導を受けながら、自己洞察と自己研鑽を行うために必要なものである。このような意義を実習指導者や教員が十分に理解した上で、学生にしっかり伝えることが大切である。 （國貞将志、羽柴香恵、森雄市、弓掛秀樹） 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5	（報告・発表） 精神障害を有する人々の日常的な作業選択における自己決定と生活満足度	単著	2011 年 6 月	第 45 回日本作業療法学会（埼玉県）	精神障害を有する人々にとって自己決定により選択した作業を行うことは、必ずしも生活満足感向上につながらないことが示唆された。精神障害を有する人々の自己決定は、自分の意思を抑圧し、周囲の期待を織り込む特徴がある。このような特徴を考慮し、作業療法実践では本人の自己決定の意味を引き出し,その理解を深め、作業体験において、意味を確認することが重要である。